

ひょうご人生 100 年時代プロジェクト推進委員会（第 2 回）議事要旨

- 1 日 時 平成 30 年 10 月 16 日（火）14 時 30 分～17 時 00 分
- 2 場 所 兵庫県民会館 7 階 亀の間
- 3 出席委員 藤原久義（委員長）、上村敏之、大和三重、小林由佳、笹嶋宗彦、
杉村和朗、武久洋三、米沢なな子
〔欠席委員〕空地顕一、名須川知子、邊見公雄
（事務局）盛山社会福祉課長、高崎社会福祉課総務調整班長、松岡社会福祉課職員
（陪 席）庄社会福祉課企画調整参事、津曲高齢政策課長、生安こども政策課長、
藤原健康増進課長、元佐病院局企画課長、川井病院局管理課参事

4 議 事 等

- (1) 第 1 回委員会の議事要旨の確認
- (2) 検討テーマに係るプレゼンテーション及び意見交換
- (3) 今後のスケジュール（見直し案）について
- (4) 第 3 回委員会の日程及び検討テーマについて
- (5) その他

【議事等の概要】

(1) 第 1 回委員会の議事要旨の確認

- 事務局が作成した前回委員会の議事要旨案について、委員に事前確認願ひ、特に修正等の意見はなかったことから案のとおりとし、プロジェクトの概要、委員名簿とともに県ホームページにおいて公開することを確認した。
- 併せて、プロジェクトの進め方、提案書の構成イメージ（たたき台）について、前回の議事を踏まえた修正版を配付した。

(2) 検討テーマに係るプレゼンテーション及び意見交換

ア 将来にわたる必要な労働力の確保策と社会保障制度の在り方について

上村敏之委員によるプレゼンテーションの後、質疑応答、意見交換を行った。

《主な意見》

- 個人差に応じた柔軟な働き方ができるようにして、適した仕事を上手く切り出せば、多くの人が 75 歳くらいまでは働くことができる。
- 持続可能な社会保障制度とするためには、負担増か支出削減しか方法はない。年金にはマクロ経済スライドが適用されているが、医療・介護には費用の伸びをコントロールする仕組みがないことが課題。
- 次回のテーマともなるが、医療を適切化していくことが必要。
- 社会構造が欧米化して格差拡大が進み、中間所得層が減少している。所得再分配を適切に行うことと、例えば相続税制の見直し等でスタート時点での格差を解消していくことが必要。
- 社会保障はなされているが、何歳まで生きるか分からないこともあり、不安から高齢者になっても貯蓄をしようとするため、経済が循環しにくい面がある。

- ベーシックインカム（B I）は、人工知能（A I）の開発による富の集中への対応策としても提案されているので、A Iとセットでの議論が必要。
- A Iができることには限界がある。新しい仕事も生まれるので、人の仕事が大きく奪われることはないのではないか。
- B Iは、財源が問題。現在の財源を前提とすれば、今の社会保障制度を全部廃止してB Iに移行しても、給付額は1人当たり年間100万円程度。
- B Iを全員に給付するのではなく若い人にだけ給付するとすれば、少子化対策となり財源も抑えることができるので、実現可能性がある。
- 少子高齢化に伴い政治的意見の高齢化が進む。政治的意思決定の投票権は、年齢や人口構造に関わりなく1人1票でいいのかという問題意識はある。シルバーデモクラシーが行き過ぎると問題。
- 東京一極集中を解消するため、首都機能の移転も含め思い切った対策が必要。
- 東京は人が多すぎて住みにくい。150万人の神戸市は中心都市としてはいいサイズ。兵庫県は、150万人都市の神戸市、50万人都市の姫路市などと但馬等の地域を上手くコーディネートすれば、多様でバランスのよい住みやすい地域になる。
- 兵庫県は叡智を出して、先進モデルとなる取組みを進めてもらいたい。

イ 「人生100年時代」の人口問題について

藤原久義委員長のプレゼンテーションにより、我が国の総人口や人口構成等の変遷や問題の所在を再確認した。（時間の関係で質疑・意見交換は省略）

(3) 今後のスケジュール（見直し案）について

議論の状況を踏まえ、当初の想定スケジュールの注釈のとおり、今年度は中間報告にとどめ、来年度も引き続き議論を継続することとした。

《決定内容》

- 平成31年度も引き続き議論を行い、来年度に提案書を取りまとめる。
- 今年度は中間まとめを行うこととし、年度内に委員会をあと2回開催する。

(4) 第3回委員会の日程及び検討テーマについて

今回から、委員のスケジュールを早期確保するため、委員会の場で次回日程を決定することとし、あらかじめ確認した委員の都合を踏まえ、次のとおり第3回の日程、検討テーマ等を決定した。

《決定内容》

◇第3回委員会の開催日時

平成30年12月25日（火）13時から15時半まで（場所は県庁周辺）

◇検討テーマ及びプレゼンテーションをお願いする委員

- ・テーマ①：医療・介護基盤の在り方について
プレゼン委員：武久洋三委員、大和三重委員
- ・テーマ②：健康寿命の延伸方策について（プレゼンなし）

(5) その他

- 委員から、兵庫県に向けた提案であるため、国レベルだけでなく兵庫県のデータも提示願ひ、兵庫県に実施してもらいたいことをもっと議論すべき旨の提起があつた。
 - 事務局から、次回、兵庫県のデータとして「兵庫 2030 年の展望」の関連データを用意すること、また、社会システムの変革は、県だけでは限界があるため、国レベルの制度議論もお願いしたい旨を回答（県では、提案内容に応じて、国への要望、県の行政計画への反映、県での先導的事業の実施等を行うことを想定）

以上